中斎塾　東京フォーラム
平成 28 年度　第三回講話

平成 28 年 3 月 12 日
於　湯島聖堂

おはようございます。寒いですね、ぶるぶると震えながら来ました。でも寒さ暑さも氣持ち次第ということがあるようでございます。但しよほど特殊な時、二松学舎で同期の石﨑先生が私に合氣道を教えてくれていた時に一度だけ体験したことですが、寒さに震える時、裸に胴着を着ているだけでとても寒かったのですが、呼吸法を教わった。そうすると外から冷たい風が入ってくる道場の中で呼吸法をやっているだけなのに、だんだん温かくなり湯氣が出てきました。一回だけの経験でした。

・そういう経験は、ありませんか？

ありますよね、やっている方はそういう経験がある。呼吸法ですから、息を吐いて・吸ってを繰り返していくと体が温かくなる。自分で不思議だと思ったのは、汗をかいてきて湯氣が出たという体験があります。ですから効くのでしょうね。

最近やっていることは、呼吸法が少し進んでというより高じて、たぶん役に立つと思うものが、脳みそ君を少し狐に化かせばよい。

例えば、何かを持ったつもりになって腕を上にあげていく。力を一生懸命こめて上げていく。そうすると脳みそくんが狐に、狸かな、化かされてどんどん強化されてくる。筋力は何歳になってもつくということです。パワーアップをしています。経験がある方ほど深く頷いています。

私が今ここで話をさせていただくベースは陽明学です。陽明学は何か。「実行」です。まずは自分の体験を語ることによって、眉唾かなと思う部分の話も何となく納得する話になるということです。ですから先ほどの話で、ただ手を上げているだけだと脳は騙されないが、一所懸命に何か物を持ち上げているつもりになっていると、これは筋肉をつけなきゃいけない動きだということで筋肉はついてくる。

ちなみに今月は人間ドックにいきました。体中に変な物をくっつけられてチューブ人間になって自転車漕ぎをさせられている中、先生との話の中で「今月の 18 日に 69 歳になりますから、これからの 1 年間は 70 代の準備の時間になります。これからの 1 年間はパワー

アップの時間にする。70 代の準備を始めます」そういう話をして「いつ頃から、そのパワーアップの準備を始めていますか」と聞かれ「昨年の暮れです」と。「2 ヶ月ぐらいは経っているんですよね」と言われ「そうですね」と言ったら、もう結果が出ていると言います。その自転車漕ぎで調べてみたところ、昨年の今頃も自転車漕ぎで筋力やら何やら計った。昨年の今頃と比べて筋力はアップしています。心臓も強化されていると言っていました。今、腕の力、脚の力をどんどんアップしています。内容は柔道の顧問と毎週 1 回、押し相撲を始めました。取っ組み合って力を出すから、腕力の筋肉がついてきた実感があります。脚も同じくです。

おまけに昨年は、だいぶ「か・き・く・け・こ」を言いました。京都大学の名誉教授が 67 歳の定年を迎えた時に「か・き・く・け・こ」を提唱した。これからの年を氣持ちよく過ごしていくために、世の中の役に立つためには、「か」感動がいる。「き」興味がいる。「く」工夫をしましょう。「け」健康。「こ」恋心を持とうということです。

その人の本を読んでみたら、著者の写真が載っていました。写真は流線型のヘルメットを被って自転車に乗っていました。

この間、私も 3 月 18 日に乗ると決めて自転車を買いました。整備は息子がしてくれるので、私は乗るだけです。来年の人間ドックの時は、かなりパワーアップしているはずです。

パワーアップをしようと思って決めたら、普段の練習が変わりました。普段の練習で、柔道や合氣道や弓道などは、だいたい襲ってきた時にどう対処をするかということばかりですが、それに攻撃をいれました。たまたま中斎塾の北関東フォーラムの山﨑幹事は空手の先生なので、棒術を教わりながら空手も教わっています。

＜七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず＞

『論語』為政第二の中にある孔子の一生です。20 代は何も言いません。それは何故か。やりたいことをやりたいようにやっても世間様は許容してくれる年代。何をやっても良い。ただ、人を殺すのはいけません。「三十にして立つ」30 代は自立をする年代。「四十にして惑わず」警察の知り合いが調べたところによると、40 代は犯罪の確率が高い年代と資料に載っています。だから「四十にして惑わず」は、お氣をつけなさいということです。「五十にして天命を知る」は、だいたいこの仕事で一生を行こうと思う。50 代は身体能力の陰りが出るし、自分の能力も何となく分かるので、だいたい諦めが入ります。それが天から聞こえてくるような感じです。私がこの世に生まれて、これは私がやるべき事だと腹の中にずっしり収まる人もいるし、やるべき事はこれだと何となく思っていたものが、もう出来ないなと思う人もいますが、50 代は世の中の役に立つことを私はこうすると決める年代です。「六十にして耳従う」私は今その耳に従う年だから一所懸命に人様の言うことを素直に聞こうと努力はするけど…さっきのパワーアップの動きを今やっていて、守りだけではなく攻撃も加味しましたから、そうすると何か色々やること成すことがパワーアップ。身体

能力だけですが、攻撃をと思っていたら実際の日常活動の中も攻撃が加わってきました。言行一致です。言うことやること思うこと、どうやら一緒です。ストレッチや運動をする時だけ攻撃を入れると、どうも日常活動もそうなるようです。その攻撃力が、腹が立つような攻撃ではなくて包みこむような攻撃がよいですね。

『論語』の中でいくと、もう 70 代は死んでいます。だいいち年金を考えた頃、官僚はそんなに日本人は長生きしないから年金を払うと約束したって大多数は死ぬから払わなくてすむと思っていたら、目算が狂って殆ど生き残ってしまった。今は 100 歳以上が 6 万人を超しました。戦費調達のために考え出したのが年金だし、源泉徴収も同じです。その頃の資料を見ると、戦争をするのに国にお金が無いから時限立法で一時的に国民の皆さんからお金をちょっと税金でいただきます。戦争が終わったら、もうそういう税金の取り立てはしませんと当時の政府は公約をして始まったのが源泉徴収です。今はもう堂々と大きな顔をして取っているわけです。…なんで脱線していくのかな。新しい方がおられるから、ちょっと脱線の仕方について、言っておこうと思います。

物の考え方です。物を考える時には縦軸の基本、横軸の基本があります。それで何回も皆さんはお聞きになっている話だからサラッといきますけれども、今回のテーマでもある木内信胤先生の本を回します。

紹介書籍

『僕の自画像』木内信胤著　善本社

木内信胤先生と平成という元号の名付け親の安岡正篤先生。御二人の息子さんに、この中斎塾フォーラムの顧問をしていただいていますが、御二人の会話で、木内信胤先生の息子である孝さん曰く「父は宮澤喜一さんのことを、あの子は通訳の能力は良かった。なまじ内閣総理大臣なんてやるから駄目だった」と言っておられたと。安岡さんが「そうですね。父も同じことを言っていました。宮澤喜一さんは横の学問は御出来になるけれども…と言って話が止まって、縦の学問は御出来にならないから」という話で、息子同士の意見が一致した。安岡正篤先生が言った縦軸は基本です。

日本人が日本人たる所以

この世界の中で、なぜ日本が今のポジションを占めているのか、日本の歴史をよく考えてみましょう。日本の心の底に何があるかということが縦軸です。横軸はありとあらゆる知識を考えれば良い。私の話があちこちに飛んでいるのは意識的に飛ばしています。色々な知識がたくさん入ってくると縦軸と横軸の間に、色々で断片的な情報が入ってくる。これが混ざりあって自分の信念や心情などでよく掻き混ぜる。そうすると、ある日突然に知

識が溢れる。溢れた瞬間に知識が知恵に変わる。ノーベル賞を貰った人達のように、散歩していたらパッと浮かびましたというものに繋がる。

基本的に縦軸と横軸の思想があって、どんどん色々な知識を入れていくと、これが突然変異を起こす。これが知恵になる。ですからあちこちに飛びます。一見関係のない話が積み重なってくると突然変わる、変化する。昇華するということがよいでしょう。

論語の視点

論語は自分に置き換え、社会に置き換え読むことが肝要です。先ほど谷口幹事の読み方はとても素直で、心根が出てきて良かったです。論語を素直に読んでいたので褒めようと思った。なまじね、格好よく読もうとする人がいますから。心根が穏やかで、氣持ちが澄みきってくるとそれが自然と伝わってくる。

論語を読む時は何度も申し上げていますけれど、一番目は素直に読む。氣持ちが入って読めるようになるとスラスラといく。そうすると今度は読んでいると、本の中の人物がイメージで捉えられる。映像で捉えられる。映像で捉えられるようになってくると動き始める。そこまでいったら、論語を現在に置き換えて自分の日常生活に置き換える。それから世の中の社会の動きと照らし合わせをしてみることが必要です。

＜憲問十四＞

【七】子曰く、君子にして不仁なる者有らんか。未だ小人にして仁なる者有らざるなり。

「君子」は、人物でみれば良いですね。**「不仁」**は不道徳。立派にみえる人物が不道徳な人有らんか。いますね。最近テレビに出ていたイクメンの衆議院議員。奥さん大事にして赤ちゃん可愛がってと、良いことを言うねと思ったら、舌の根が乾く前より先に遊んでいた。こういう人は読んでおけば良いのにね。**「小人」**は、欲の皮が突っ張った人という意味。今の時代、欲の皮が突っ張った人間が、道徳心に溢れた人間になるわけがないということです。

【八】子曰く、之を愛しては、能く労せしむること勿からんや。焉に忠にしては、能く誨うること勿からんや。

自分に子供がいるとしたら、その子供を素晴らしい人間にしたい。そうするためには苦労をさせたほうが良いということです。

「焉に忠にしては」これは自分の主君にたいして忠。悪いことをしていると思ったら**「誨うること勿からんや」**教えを導かないでおられようかと、宇野先生の言葉です。良い科白ですね。

猪瀬理事長が宇野精一先生にお聞きした時に「先生の論語の解説は難しすぎて分かりません。もっと分かりやすく言ってください」と言ったら「君は何と難しいことを言うんだ」と、そのあと宇野精一先生は努力をしてやさしく言ったけれど、やっぱりよく分からなかったという話があります。「やさしく言う」ということは、なかなか難しいです。

【九】子曰く、命を為るに、裨諶　之を草創し、世叔　之を討論し、行人子羽　之を修飾し、東里の子産　之を潤色す。

自分一人で文章を作る時には、多重人格になれということです。外交文書を作成する際に、頭のまわる裨諶がまず原稿を書いた。その次に物知りの世叔が色々なことを研究して中身をどう書くかということを詰めた。そして子羽が文章を添削したということです。添削をする時は書き加えないで削るだけです。最後に品格のある子産が潤色して格調高い文章に書き換えた。自分で作る時には、その順番を経て文章を書くことが良いという事です。

今、酒井理事のうなずき方が、かなり深かったので、何か良い文章を作っているのでしょう。

この**「子曰く」**と書いてあるのは、昔は「のたまわく」と読みました。「子（し）」は先生です。孔子は孔先生となります。「のたまわく」と言うのは、孔先生がおっしゃいました。孔先生がおっしゃるには、こうですという説明をしました。それが当たり前の時代でした。それが終戦を迎えて日本の背骨をなくそう、日本の心を落とそう。またアメリカと戦うという氣持ちに日本人がならないように骨抜きにするということで GHQ が占領政策を進めました。占領政策を進めた中で私がよく覚えているのが 3S 政策。三つの S です。政策で一番分かりやすい。スクリーン、スポーツ、セックスです。スクリーンはアメリカの文化が世界に広がるように進める。映画は良いね、ハリウッドは良いねと、広げました。

スポーツは頭を使わないで体を動かしなさい。セックスは言わずもがなですが、子供を作ろうということだけでないのは人間だけのようですね。私がそういうことで知るのでいうとカマキリ。これは凄いね。交尾の最中メスがオスの頭からバリバリ食べてしまう。貝原益軒がいわゆる「接して漏らさず」が良いと言っていたから、カマキリは参考にしなかったんでしょう。

「子曰く（し のたまわく）」と、なぜ昔は読んで今は読まないか。終戦直後 GHQ の話から広がっていきましたが、「孔先生のおっしゃいますには」と尊敬して言っています。終戦後は人を持ち上げないで、みな平等という考えが広がりましたから、学校で教える時に昔は教えていた「のたまわく」と教えなくなりました。自然と「子曰く（し いわく）」となっていました。最近、一部の小学校で「のたまわく」と言うところも若干ある。私は「しいわく」と「し　のたまわく」どっちが良いかと考えてみて、「孔先生がおっしゃいますには」と自分で訳してみた時にピンとこない。「子（し）」は先生という言葉に訳しますが、やっぱり「孔さん」ですね。孔先生という感覚で「孔さんが言っている」という感じです。日本人としては「おっしゃる」まではよほど尊敬してないと言えない。ただ長幼の序で年輩、孔先生が言われるにはという感覚で「子曰く」と読んでいます。なぜ「のたまわく」と読まないのかは、時代が違うということです。

『論語』は、教えていただくのではなく、氣楽に読む判断基準の本だと思えば良いでしょう。中国人からみると『論語』という書物は、できっこない理想的な物を掲げて、みな向かって行こう。実態はこんなに酷いけれど、素晴らしいことを考えようではないかと感じます。

日本は、あの理想は素晴らしいとなりました。理想に力点を置くか、できないという部分に力点を置くか。『論語』は日本で理想としての花が開いた。日本人が『論語』を見ることによって『論語』は命を得た。私はそう思っております。

竹岡会員－すみません。先程の話で、先生が人間ドックの時に聞きたいことがあると言って、突然だと面食らうからと事前に用意されて、昔の人はこう言っているけれど、はたしてそうなのかと紙に書いてくれたものをドクターとナースが中心に検討しました。貝原益軒のことや、ある程度年齢がいったら女性を寄せつけないほうが良いとあるが、それは本当かと…。

「女性を寄せつけない」は、三島中洲です。三島中洲が 65 歳の時に脳出血で倒れた。倒れたあと自戒の言葉を作って、靖国神社を散歩していたが、散歩の時間を 30 分から 1 時間に変えました。おおいに散歩をしなさい。少食にしなさい。夜は早く寝て睡眠をたっぷり取りなさい。そのあとが自分の寝屋に女性は寄せつけないことにしたと書いてあります。人間ドックの先生は「これは駄目だ」と書いてありました。

竹岡会員－そうです。それだけはちょっと違って、あとは先生のおっしゃる通りです。

私は、三島中洲の自戒は少し嘘じゃないかと思うのですが…あの先生は自分の絡みあるものと実際にやっていることは不一致。陽明学をやっている先生にしては、言行不一致が随所にみられる。でも、だから楽しい。

三島中洲の時代は、権妻（ごんさい）さんが当たり前でした。権妻さんは、知っていますか？知らない人も多いようなので説明をちょっと致しましょう。

正妻がいて法的に認めたお妾さんが権妻さん。当時、相続の時に正妻は 100％権利があったが、手をつけた人の子供には相続の権利はありませんでした。明治の頃は正妻さんが 100％の権利があり、権妻さんは 80％認められていました。だから公に認められている存在です。三島中洲が亡くなる前に色々なことを言い残していますが「私の人生は実に良かった。家族に恵まれて息子達に囲まれて、良い人生を送っている」とあります。

三島中洲の一人目の奥さんは子供を産んですぐ亡くなりました。二人目の奥さんは子供がちょっと育ったところで母子共に亡くなった。三人目の奥さんは添い遂げるけれど、産んだ娘が 14 歳で亡くなった。そして、お妾さんが産んだ子供を一番目の奥さんが育て、お妾さんが産んだ二番目の男の子を二番目の奥さんが育てました。ということで自分が家族に囲まれて良いと言うのは長男、次男は権妻さんが産んだ子。三男は正妻さんが産んだ子供。そういう環境の中で私の面倒は女房とお妾さんがみてくれているから、なんと幸せな人生だったかと言っています。今の時代感覚でみるとおかしいと思うけれども、その当時は、おかしくなかったのでしょう。

（途中からの参加者が入室）

いい時間に御出でになりましたね。いい時間に来たと言うのは、今、下ネタの話をしていたけど終りました。これからは、まともな話をいたします。

幹事－群馬といったら下ネタネギ。

あのネギ美味しいよ。下仁田ネギは作るのが大変。…まあいいや、あなた脱線させるね。脱線は意識的に良いことだと思っています。脱線をすればするほど縦軸と横軸の中を埋めていく情報がどんどん入りますから、それが繋がりあって爆発を起こす。決まりきった法律の文言だけやっていると人生の機微が分かりません。三島中洲の家庭の中を見て御覧なさい。でも、もっと酷いのが渋澤栄一。

渋澤栄一さんは手をつけた人やら何やら沢山いるから、子供達が面倒にならないように家訓を作った。渋澤家のほうが大変だったでしょう。渋澤栄一、三島中洲が出てきたから話をそちらに繋いでいきますと、今日は木内信胤という先生です。

テーマ

＜木内信胤＞

木内信胤先生をベースで考えると、あらためて木内信胤という先生を見直しましたというよりチェックしました。先生がよく「私はおじが二人総理大臣だからね、私は貧乏人じゃないけども金持ちでもないよ」と言っていた言葉の尺度が違うのは当たり前だと感じます。木内孝さんから見るとお父さんが岩崎弥太郎の孫という言い方になるし、信胤先生のお父さんは木内重四朗です。信胤先生から見ると京都府知事をやられた父親は大臣になるはずだったのが冷飯を食らったという書き方をしています。ちょっと感覚が違うねと思って読んでいます。

岩崎弥太郎の長女・春路が結婚した相手が加藤高明・第 42 代内閣総理大臣です。四女・雅子は結婚した相手が幣原喜重郎・第 44 代内閣総理大臣です。それから木内信胤先生の奥さんは福澤諭吉の孫娘・多代です。そりゃ日本一の金持ちから比べれば、私は金持ちじゃないと言うのは当たり前だと思う。だから尺度が違いすぎてしょうがないという氣がします。木内信胤先生が書かれた文章を読んでいてあまりにも浮世離れしているものがいっぱいあります。我々の生活にちょっと見られない感じです。

「物事は全て実践である」ということです。実践・実行をして、それで物を考えなければいけない。本だけ読んで頭の中だけで作った物は役に立たない。実践を通さなければ物の役に立つものかと、経済学も実践をしなければ駄目だという観点からすると、今の経済学は駄目になった。これから世界をリードして救っていく経済学は実践がベースでないといけない。そのために信胤先生が『当来の経済学』を書きました。また一段落したところで頼まれていた日経新聞の「私の履歴書」を書こうという氣になって書き出しました。

今、木内先生の書かれた物を見直している中で一番ピタリときたのが「実践」です。陽明学は行動ですので、同じではないかと感じます。

木内先生は、新聞はしっかりと見ておられました。木内先生の新聞の見方は、二つの新聞を熟読すると資料にはありましたけれど、亡くなる前は四紙みておられました。青鉛筆と赤鉛筆でびっしり線を引っ張っていた。線を引っ張ったら、お終い。書き取らない。そういう勉強の仕方でした。

安岡正篤先生は書き込みがいっぱいありました。嵐山の郷学研修所に恩賜文庫があります。天皇陛下から「君は頑張っているから少し本を買いなさい」といわれて恩賜文庫をこしらえた。ドイツ語の原書や英語の本など色々とありましたが、私が見て分かるのは日本語、論語、漢文のところです。見てみると書き込みが結構ある。安岡先生の場合は「私が学んだところを学ぶな。私が学ぼうと思ったところを学びなさい」という言い方が印象に残っています。勉強している人は、勉強して勉強して頂上だと思ったら、逆さ富士になる。自分でよく勉強したなと思ってふっと下界を見下ろすと裾野は広がっているけれど、ふっと上を見ると、まだ勉強することが沢山あるのが見える。それが学問の仕方です。

木内信胤先生は学者になろうと思ったのですが、教えてくれた先生に「君は学者には向いてない」と言われて諦めたそうです。なぜ「学者に向いてない」と言いますと、学者は視野が狭い。視野が狭いところを深く掘っていく。「君は、あれもこれもと広がっていくから向いていない」ということで社会人になった。社会人として為替専門の銀行である横浜正金銀行に入行しました。今の三菱東京 UFJ です。長ったらしい名前ですね。この間、三菱東京 UFJ の群馬支店長と会ったのでお喋りをしました。連れてきた課長に岩崎弥太郎の話をしたら「君、知っているよね」と言ったら「知りません」と言います。「頭に三菱が付いていて岩崎弥太郎を知らないのか」と言ったら「私は三菱系ではありませんから」と。支店長は「私は三菱系ですから分かります」と。横浜正金銀行は後の東京銀行ですから、だから「私は東京系ですから岩崎弥太郎は知りません」と大きな顔して言わないことですね。その辺りの歴史をみれば勉強不足もいいとこだと思います。

恒例の質問

・今年に入って 2 ヶ月ちょっと経ちました。良い日が続いたなと思う方、または良い日がずっと続いている。

人間って大きな問題だなと思うと、それが頭の中でいっぱいになります。そういう時は、自分の良いことや素晴らしいこと、例えば何処かにあなたに恋焦がれている人が色目をつかっていることにもちっとも氣がつかない。

頭から自分を信じてしまえばいいのです。自分を信じられるかどうか。哲学の話になりますが、過去・現在・未来とあります。過去は一瞬にして過去。今こうして立って喋っているけど一瞬にして、もう過去になっています。現在はどこにあるの、今はどこにあるのか。未来、これは唯識学です。中斎塾の新規講座で 1 年半ほど勉強をしました。お坊さんに唯識学を勉強していると言ったら「我々でもなかなか出来ない難しいことをしていますね」と。だからここで勉強をしていることは、かなりレベルの高いことです。

「なかなか難しいです」と言うことは、当たり前です。ただ信じるものは救われるですから、実際にふっと良い日と思ったら良い日です。悪い日があると思ったら悪い日です。そんなことをやって何が出来るのと思ったらもう駄目です。

・今年に入って嘘をつかなかった。

嘘をつくと心持ちが何かすっきりしない。嘘をつかなかった、良かったなと、私は夜寝る時に必ずこれを自問自答します。

・今年に入って「有難う」と言い、「有難う」と言われることが多かった。

どうも人間ね、金が増えたり物が増えたり名誉も地位もあったりすると、だいたい「有

難う」と言うだけで「有難うございます」とは言われない。お年を召してくると「有難う」と言わない。もう私は老年だから周りの人間が何かやってくれて当たり前だと思っている。

・今年に入って自分磨きしている人、実感がある方。
自分磨きは陽明学でいうと「事上磨練」です。

・昨日と今日、健康法を実践した方。
・昨晩、寝る時に明日以降のことを過去形でイメージ出来た方。

中斎塾の趣旨

猪瀬理事長から「中斎塾の趣旨も言ってください」とリクエストがありました。基本理念は「知足」

知足は「足るを知る」という言葉。今もそうですが、世界を救う言葉であると思っています。世界を救う前に日本がこれで救われる。その言葉が「足るを知る」と思っています。だからこれを基本理念に致しました。

世界は今、危機に瀕しています。これはもう当たり前。文明法則史学という学問では、東洋の文明・西洋の文明が二千年前後の単位で文明が繰り返しいく。それは世界の歴史を見ると、そういうことになっています。

現時点は西洋文明から東洋文明に移行する転換期の真っ只中にある。だから文明論的にいって、危機に瀕していると言う。…脱線したいね。危機の話もちょっとしたかった。危機というのは、喋りだすと長いから止めておこう。

要するに、危機というのは地球が破壊されつつあるということです。最近の言葉ですと、ローマ法王が表現はちょっと違ったみたいだけど中身としては「今、第三次世界大戦が始まっている」ということです。10 年前に中斎塾の発足で同じようなことを言っています。残念ながら、目先しか見てない。その現実を見ようと思わない。また、知らせようとも思わない識者が多いと感じます。識者ってこれで御飯を食べている。有識者とは何だ。単なる物知り。これ皮肉が入っています。有識者というのは、人よりたくさん物を知っているだけ。単なる知識の集積にしか過ぎない。

石川梅次郎先生から教わった言葉の中で学問に限らずですが、難しいことを難しく言うのはアホの学者。難しいことをやさしく言う学者は本物。やさしいことを難しく言う人は偽者。偽学者。学者にこれを話すと「NO」と言う人はいない。不思議ですよ。

それから、知足主義を根底に「足るを知る」ということを日本国中に広げたほうがいい。それは「足るを知る」という言葉は、おかげさまで・もったいない・ありがとう。みんな

根っこは同じだと私は思っています。

本質・大局・歴史の判断の三原則に基づいた時代洞察の眼力を養い。これはやさしいことを難しく書いていたら、似非学者の部類の文章ですね。もう一回、柔らかく変えましょうかねと思います。ただこれは、この言葉に引っ掛かって調べてくださいということです。辞書で調べて、またはこれを言った先生は誰なのかと自分で調べて欲しいなと思うことを並べてあります。

判断の三原則は安岡正篤先生が違う言葉で言っています。木内先生も同じ。時代洞察の眼力は河合継之助です。総合的直感力は木内信胤先生。色々な陽明学の方々、先生方の科白を散りばめています。

宝石で言えば、大きい粒、小さい粒、すべて同じ粒ではなく色々な大きさの物を上手く総合して、バランスよく素晴らしい作品に仕上げると思いますけれど、いかがですかね。

提言･行動する場を創出したいとフォーラムで願い 10 年です。提言して行動することは、少しずつ今、広がりつつあるなという感じが致します。

来年 10 周年ですが、こういう考え方が世の中に通用するかどうか 1 年間無料奉仕でやってみて、「2 年目から有料にしても大丈夫か」と言ったら、会費を払ってくれる方が結構いました。会費を戴いて、正式にスタートしてちょうど来年の 3 月で 10 年になります。

木内先生の本を読んだりして、どうぞ覚えてください。この次またやりましょう。以上で終了いたします。有難うございました。